



British Politics Today

2012年3月1日
第1巻 第2号

著者 菊川智文,

www.Kikugawa.co.uk
tomo@kikugawa.co.uk

この号の内容

- 1 はじめに
- 2 マニフェスト
- 3 プレアの教訓
- 4 英国の階級社会
- 5 英国の政治の動き
- 6 英国から見た日本

理念が大事なマニフェスト

英国では都合の悪いことは マニフェストで

- ① 言わない
- ② 異なった印象を与える
- ③ 他の人に任せる

1. はじめに

ロンドンでは春の気配が感じられます。今夏のロンドンオリンピックに向けての準備が着々と進んでいます。第2号を発行させていただきました。

2. マニフェスト

日本の選挙でも近年マニフェストが使われるようになりました。マニフェストは、選挙で重要なものですが、自党に有利で、しかも有権者を離反させないように作ります。ここでは英国の、特に最初の選挙勝利の際のマニフェストを見てみます。

まず、マニフェストの理念です。例えば、1979年に政権についた保守党のサッチャーのマニフェストは、極めて慎重なものでした。しかし、労働組合の力を抑えて、個人の力を引き出し、衰えていく英国を復興したいという熱意が表現されています。サッチャーの多くの構想が実現していくのは2期目、3期目です。しかし、こうした基本的な構想は、限られた任期中に物事を成し遂げるには極めて重要です。

一方、責任政党として「それらしい」マニフェストを作る必要もあります。ほとんどの基本的な分野をカバーし、数字を並べ、政権を担当できるという印象を与える必要があります。支持者を満足させ、ターゲットの有権者にアピールできる政策を入れます。その反面、都合の悪いことはなるべく入れないようにし、以下のような手段を講じます。

- ① 言わない
- ② 異なった印象を与える
- ③ 他の人に任せる。

①と②の例として、VAT(付加価値税・日本の消費税と同様のもの)の例があります。サッチャーのマニフェストでは具体的な数字に触れず、「所得税を下げます、VATを単純化します」と書いてありました。収入への税から消費への税へある程度移行するとしていましたが、政権獲得後、それまで贅沢品の12.5%、一般のもの8%のVATを「単純化」し、一挙に15%にしました。サッチャーの後任の保守党のメジャー首相は、1992年のマニフェストでVAT引き上げや対象拡大には触れず、その「計画はありません」と発言しました。選挙後、対象を拡大しました。

これは、2010年の総選挙でも同じでした。2009年秋、保守党支持のテレグラフ紙が、キャメロン党首とオズボーン影の財相がVATを20%に上げることで合意したと報道しましたが、マニフェストでは触れておらず、聞かれると、その「計画はありません」と答えていました。キャメロン政権はVATを20%に上げました。

もちろん、こういうことができるのは、英国の政治的、制度的な条件があります。下院を制する政党が税をコントロールでき、上院には事実上税法案に反対する権限がありません。

上の③の「他の人に任せる」では、2010年総選挙の際の大学授業料の例がありません。英国では2校を除き、すべて国立です。当時の政権政党の労働党は、大学授業料を引き上げる必要があると考えていましたが、大手石油会社の元社長にその検討委員会の長となるよう依頼し、マニフェストでは、その報告書が出てから検討すると主張しました。保守党も同じ主張をしました。第三党の自民党は、大学授業料を6年かけて段階的に廃止するとマニフェストに入れました。結果は？保守党と自民党の連立政権では、報告書を受けて大学授業料の上限をそれまでの3倍近い9千ポンド(115万円)に上げ、トップ大学のほとんどはそれを採用しました。

一般の人はマニフェストを読みません。マニフェストを読むのは、ジャーナリストやシンクタンク、それに立候補者などごく一部の人に限定されています。新聞紙でかなり細かく報道されますが、ほとんどの有権者は、どの政党がどの政策を出しているか見分けがつかない場合も多く、2010年総選挙ではその傾向が特に強く見られました。しかし、選挙戦が終盤戦に入ると、マスコミも焦点を絞った報道をするため、有権者は次第に主な争点と政党の主要な政策を理解し始めます。一方、シンクタンクなどが中立的な立場で政策を分析し、財源の問題などを指摘します。2010年総選挙では、有力シンクタンクが、主要三政党のいずれも財源に問題があると批判しました。

一方、マニフェストには限界があります。マニフェストを実施すれば国がよくなるのでしょうか？マニフェストで述べられたことは、それが作られた時には正しい政策であったかもしれませんが、激動する社会で、状況は短時間で大きく変化します。その有効性は次第に薄れていく可能性が高く、2年もたてば、全く異なった状況にある可能性があります。さらにマニフェストで約束したことが的を外れていることもあります。例えば、労働党が1997年のマニフェストで約束した、NHSの順番待ちリストの短縮は、一部の人の待ち時間が極端に長くなるなど多くの弊害を生み出しました。さらに、マニフェストはそれらしいけれども、実際に何を成し遂げたいのかははっきりとした構想がないという場合もあります。ここではブレア元首相の場合を取りあげます。

マニフェストの限界

3. ブレアの教訓

1997年、ブレア労働党は、「一に教育、二に教育、三に教育」と提唱し、変化を訴え政権につきました。そのマニフェストには多くの数字や約束が入っていました。後にブレアは自伝で、きちんとしたものと言えるだけの内容であるけれども、敵からの攻撃を避けるために詳細ははぶいた、とコメントしています。1997年のマニフェストづくりの段階では、有権者からのフィードバックを徹底的に分析し、有権者が少しでも労働党に投票しなくなるような要素は完全に除きました。ブレアは、それまでの18年間、労働党が総選挙で政権につけなかったことを何としても変えようとし、労働党が勝つことを絶対の目標としました。そのため、勝ってからどうするかという具体的な構想への配慮が欠けていました。

好機を逸したブレア

前党首からの課題だったスコットランドの分権や上院の改革など制度的な改革は実施しましたが、3年ほどたって自分のプロジェクトを見つけ、選択と多様化に基づいた公共サービスの向上に取り組み始めました。それまでの期間を「好機を逸した」と表現する人が多く、ブレア自身、2001年からの2期目を自分の本当の1期目と見なしていたと言われます。ブレアは、3回連続で労働党を総選挙勝利へ導き、特に1期目と2期目には下院で非常に大きなマジョリティを持っていました。もしはっきりとした構想を持っていれば、かなり大きな業績が上げられたはずですが。

4. 英国の階級社会

拡大する中流階級 アンダークラスの出現

英国の階級社会の存在はよく知られています。しかし、この階級社会も大きく変貌しています。中流階級(ミドルクラス)が拡大し、アンダークラスと呼ばれる層が出現しています。中流階級は、よく三つに区分され、アッパーミドルクラス、ミドルミドルクラス、それにロウワーミドルクラスと表現されます。アンダークラスは、労働者階級の下に位置します。これには様々な定義がありますが、基本的に、生活扶助に頼っている人を指します。特に親が働いていない家庭に生まれた、働いていない人たちを含みます。福祉国家が生み出した層ともいえます。

日本では、例えば、平成 23 年度の「国民生活に関する世論調査」では、自己評価で、国民の 93%が自分を中流以上だと見なしていますが、英国で一般に使われている NRS 社会階層区分では、世帯主の職業別で区分けしています。この区分では、1968 年には中流階級が 34%でしたが、2010 年までには 55%にまで増加しています。

ここでは、政治と階級について見てみます。下の選挙時の各階層の投票動向の表をご覧ください。1974 年 10 月の総選挙から 2010 年の直近の総選挙までどの階級の人かどの政党に投票したかまとめたものです。ABC1C2DE は以下の通りです

中流階級

A:高い地位の管理職や専門職
B:中程度の管理職や専門職
C1:低いレベルの管理職や専門職

労働者階級

C2:熟練労働者
DE:半熟練・非熟練労働者、その他

1992 年までは、中流と見なされる層の半分以上は保守党に投票していました。特に 1992 年の総選挙で労働党が敗れた時には、中流の 54%が保守党に投票したのに対し、労働党は 22%しか獲得できず、その差は 32%もありました。1994 年に労働党党首となったブレアは、ここに注目し、労働党が政権に返り咲くにはこの中流階級の票を獲得する必要があるとして戦略を立て、その結果、1997 年の総選挙では中流は、保守党に 39%、労働党に 34%とその差が 5%にまで縮小しました。



咲き始めたロンドンの桜

	Elections 1974 - 2010								
	Oct-74	1979	1983	1987	1992	1997	2001	2005	2010
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
All									
Conservative	37	45	44	43	43	31	33	33	37
Labour	40	38	28	32	35	44	42	36	30
Lib / Alliance / LD	19	14	26	23	18	17	19	23	24
Middle class (ABC1)									
Conservative	56	59	55	54	54	39	38	37	39
Labour	19	24	16	18	22	34	34	30	27
Lib / Alliance / LD	21	15	28	26	21	20	22	26	26
Skilled working class (C2)									
Conservative	26	41	40	40	39	27	29	33	37
Labour	49	41	32	36	40	50	49	40	29
Lib / Alliance / LD	20	15	26	22	17	16	15	19	22
Semi / unskilled working class (DE)									
Conservative	22	34	33	30	31	21	24	25	31
Labour	57	49	41	48	49	59	55	48	40
Lib / Alliance / LD	16	13	24	20	16	13	13	18	17

Source: MORI/Ipsos MORI election aggregates 1974-2010

<http://www.ipsos-mori.com/researchpublications/researcharchive/poll.aspx?oItemId=101&view=wide> より作成

2010 年となると、中流階級と労働者階級の熟練労働者では、保守党並びに労働党への投票がほぼ同じとなっています。半熟練、非熟練労働者らでは、労働党への支持が強いですが、保守党との差がかなり少なくなっています。

5. 英国の政治の動き

1. キャメロン政権は、発足して2年足らずですが、問題が山積してきています。

保守党は従来から「法と秩序」の政党という評判があります。しかし、この評判を失いかけています。例えば以下のような問題があります。

- ① イスラム教過激派の説教師(ヨルダン人)を国外退去させられない。
- ② 刑務所で服役中のイスラム教過激派が他の刑務囚を洗脳している。
- ③ 強盗が10%、ひったくりが11%アップ。
- ④ 昨年夏の英国各地での暴動の発生
- ⑤ 電話盗聴問題に関連した警察の腐敗疑惑
- ⑥ 刑務所からのプロベーションの査定、管理の不手際

また、政府の健康・社会介護法案(NHS 改革法案)への反対が医師、看護婦らに根強く、また、世論調査によると、国民の支持は乏しく、この改革を進めるべきだという人はわずか14%にとどまっています。この法案は、NHS 内の中間管理職を減らし、お役所的体質を変え、現場により大きな権限を与えることで、より効率的な制度を作ることを目指しています。NHS 発足以来、最も大きな改革だと言われていますが、このような改革は、マニフェストでも、連立政権の合意書でも具体的には述べられていませんでした。

さらに、福祉手当受給者に働くことを促し、福祉手当システムを単純化する福祉改革法案への反対も根強いものがあります。しかし、NHS 改革法案も福祉改革法案も法制化される見込みです。

ロンドン住宅地の街並み



雑記

英国の階級社会は、かなり捉えることが難しいテーマです。英国人のほとんどは自分がどの階級に属し、自分の身の周りの人たちがどの階級に属するか知っています。それでも、階級社会のことを詳しくたずね始めると、「よく知らない」と根をあげてしまいます。

例えば、ブレア首相の下で副首相を十年余り務めたジョン・プレスコットは、社会的な地位や収入から自分は中流階級だと発言しました。しかし、プレスコットの父親は、労働者階級の親の子供は労働者階級だと主張しました。中流階級の象徴とされる自宅を所有して社会的な階層を上げる例はかなりあります。また、英国の製造業が弱まり、多くの工場労働者が仕事を離れ、サッチャー改革で労働組合が弱くなり、また、英国の社会福祉政策が向上した結果、労働者階級への一種の帰属意識が弱まっています。

一方、上流階級の多くの人々は、先祖からの遺産で生活できなくなり、様々な仕事に就き始めています。例えば、世襲貴族は、先祖から引き継いできた大邸宅や居城を維持していくのが困難になっています。維持費が莫大な額になってきており、邸宅を一般に公開して入場料を課したり、それぞれの邸宅を売り払ったり、慈善団体や地方自治体に寄贈したりして維持してもらっている場合もあるぐらいです。そのため、貴族の子弟でも、普通の仕事に就く例が増えてきており、誰が上流階級かは、話し方やアクセントなどを見る以外には、一般には見分けがつきにくくなっています。

そのアクセントは、これまで階級を明白に示したものと考えられていましたが、これも変化してきています。例えば、キャメロン首相の母親は准男爵の娘で、上流階級のアクセントで話します。キャメロンの妻サマンサも同じく貴族の娘ですがサマンサはそう上流階級のように聞こえません。上流階級も変化しています。

5. 英国の政治の動き(続き)

2. ビッグソサエティ

2010年の総選挙で、キャメロン現首相率いる保守党は、ビッグソサエティという構想を打ち出しました。これは、政府がすべてに対応するのではなく、国民ができることは積極的に任せ、国民が自主的に対応していくという考え方です。しかし、選挙期間中、この考え方は、保守党の「小さな政府」の隠れ蓑だという批判が出ました。また、その考え方が浸透しなかったため、保守党が過半数を獲得できなかった一つの理由に挙げる人がかなりいます。この考え方から、キャメロン政権のローカリズム法案などが出ていますが、ビッグソサエティ自体は、あまりうまくいっていません。政府の財政緊縮で、ボランティアや慈善団体などの予算が大幅に削られていることがその理由の一つです。もしキャメロンが2期目、3期目の政権を担当する機会を与えられれば、この考え方が再び前面に出てくる可能性があります。

3. 英国政府が新しい形の契約方法を開始

<http://www.cabinetoffice.gov.uk/news/new-civil-service-training-contract-set-benefit-small-businesses>

これまで省庁らが個別で発注していた職員の各種トレーニングを政府全体で一括して大手一社に主契約者として発注し、その全仕事の51%以上を競争入札で中小企業に回し、その管理もするという形の契約を結びました。この契約では、公務員が民間企業との契約が不得手であるという問題に対応し、また、効率を上げながらも中小企業に仕事を与え、幾重にもメリットがあります。政府がこの大手会社の監査をすることになっていますが、それをきちんとできるかどうかが課題だと思われる。



シェークスピアのグローブシアター

6. 英国で報道された日本

英国で最近報道された日本関係のニュースから

- ① 東日本大震災と福島原発のその後
震災と津波が起きてからこの3月で1年経ちます。英国のジャーナリストが福島第一原発やその周辺の立ち入り禁止区域に入り、そこから地域の現状や今でも高い放射線の状況をレポートしています。また、民間事故調の調査報告書では、菅前首相のリーダーシップが評価されているが、前首相の運営面での度重なる細かい干渉を批判したと報じられました。放射線量が高まる中、東京電力から社員を撤退させたいと連絡を受けたが、残って対応するよう命令したことがこの危機の岐路となったと指摘されています。
- ② 天皇陛下の手術とご容態。78歳の天皇陛下が心臓バイパス手術を受けられ、回復されておられると報じられました。
- ③ オリンパス光学の新トップ。英国人の元社長が問題を暴きだしたため、特に注目を集めています。会社生え抜きの社長と主取引先銀行からの会長の人事は、日本に典型的な人事だと見られており、批判があります。
- ④ 日本の経済状況
一月は貿易収支が記録的な赤字でした。強い円とタイでの洪水で日本関係製造業に影響があったこと、さらに原発の発電停止などで、燃料輸入が増加したことが主な原因と報じられました。
- ⑤ 英国のシンガポールでの日本軍への降伏の70周年でした。これは、1942年2月のことです。

菊川智文
英国政治アナリスト
京都大学法学部、松下政経塾卒
英国スターリング大学 PhD
著書「英国政治はおもしろい」(PHP)

引用、転載には引用先、著者名を明記して下さい。

コメント・配信お申し込み : tomo@kikugawa.co.uk